

温暖化防止ながれやま便り

NPO 温暖化防止ながれやま
代表 下田 収 (あつむ)
流山市宮園 3-17-2
編集 石垣 幸子

第43号 2022年3月

第174回省エネ学習会

新春ビッグ対談

「脱炭素社会にむけて」

衆議院議員 齋藤健氏・元気ネット代表 鬼沢良子氏



令和4年1月7日、(金)、スターツ
おおたかの森のリハーサル室にお
いて、衆議院議員齋藤健氏と元気
ネット代表の鬼沢良子氏をお招き
して、「脱炭素社会にむけて」と題
した新春対談をして頂いた。

鬼沢氏 今、あらゆる生活が温暖化防止に向けての政
策となっている。非常に厳しいですが、パワーポイント
は2050年にカーボン0を目指して、一人一人が何を
すればいいのかを問われている。

プラスチック削減と食品ロスの問題。先のオリンピック
の時のボランティアのお弁当の件。関係者もボランテ
ィアの方も、食品ロスの意識がなかった。

齋藤氏 プラスチック削減と言えば、小さなことですが、
ペットボトルのリサイクルの際、ラベルをはがすこと。
一人一人がはがすのは簡単。大量のペットボトルのラ
ベルはがしは、いかに大変か。みんなに協力してもら
いたい。

鬼沢氏 食品ロスの問題は家庭の備蓄もある。災害など
に備えて、買いためて、あちこち置く。気が付いたら
期限切れ、期限が切れても少々は大丈夫ですからね。

齋藤氏 日本の食料の自給率を考えたい。ほとんどの
食料は輸入です。考えたいのは、地域で生産したもの
をその地域で消費する地産地消である。わざわざ船
や飛行機でCO2を排出しながら運ぶより、新鮮な旬の

もの、作り手の見える安全な
食品を食べよう、が地産地消
の基本である。

鬼沢氏 地産地消は大変重要
で、地域循環、持続可能な社
会をつくること、流山だけでなく広い範囲で分担して
いこう。エネルギーも地産地消を、カーボン0を目指そ
う。今千葉県13の地域がカーボン0を目指して手を
挙げている。

齋藤氏 日本は2030年カーボン0の宣言をした。
日本のCO2の排出は、差引を0にする。菅前首相は20
30年までにCO2削減46%と所信演説をした。この時、
この数字はまだ積み上げられていなかった。本当に
できるのか、でもやるしかない。もう2030年はあつと
いう間です。電源の発電所はすぐには変えられない、
建設にも1個作るのに10年、20年かかります。新しい技
術でしか実現が不可能というのが現実です。

鬼沢氏 若者たちにとって、ファッションの世界からゼロ
ミッションを考える人たちが多いという。例えば布
の裁ち落としなどを樹脂化してブローチに。服飾の世
界でも循環の意識を持つことの重要性が見直されて
きている。メーカーも大量生産ではなく、おしゃれで、
若者が興味を持つものをつくるが基本。古着をリフォ
ームして活用したり、自分でデザインを変えたりして
ファッションを楽しんでいる

齋藤氏 今、電気自動車へと流れは変わっています。電
気自動車はCO2を出さない？ 電気自動車用の電力



を増産しなければならない。電源としての再生エネルギーはどれだけ供給できるのか、悩ましいところである。

今後、自動車産業は電気自動が進んでゆくと、トヨタ



はトップ圏ではない、ほとんどが中国とドイツが占めることとなる、今心配なのは自動車関連企業の雇用の問題である。

鬼沢氏 周りを見ても、電気自動車の充電施設がありませんね。充電施設が家庭しかない、ガソリンスタンドみたいなにならないと電気自動車に乗ろうという気にならない。

齋藤氏 木材が見直されてきている。日本の数少ない資源である森林資源。かつて、戦後の復興期、こんな山奥にまで植林した。感動しました。今ようやく伐採を迎えている。木材は伐採、廃棄の過程でCO2を出してしまうが、植林・生育の過程でCO2を吸収してくれる。国の森林政策、所有者は整備をする義務がある。所有者は義務を果たすことが困難である場合、市町村が委託を受けて整備をする。問題は財源である、国は「森林環境税」の策定を進めている。流山おおぐろ小学校、木材をものすごく使っている。住宅の木材利用を考えていこう。プラスチックに代わるもの、木、紙、竹など。プラスチックの椅子は木製品にするなど小さなことを意識して選んでいくことが大切。

鬼沢氏 食品ロス、どうしても廃棄せざるを得ないものもある。微生物の力を使って飼料化の技術が進んでいる。豚のエサは、海外からの輸入に頼っている。食品ロスの廃棄物を豚のエサにする。

齋藤氏 豚肉は国産でも、餌を輸入という事は海外依存が大きい。食品ロスを食べてくれれば餌の輸入はし

なくてもいい。エコヒート、食品ロス、飼料の問題など、今研究が進んでいる。ぜひ進めていきたい。

鬼沢氏 食品ロスの有効利用として飼料化するには、栄養のバランスを考え、固形や液体にすることも考えている。廃棄物の有効利用として世界中に広がっている。この豚肉を、もう一部のスーパーで豚肉「優とん」として売られています。

また、世界中が牛肉を減らしていこうとされている。代替えとして大豆ミート。

齋藤氏 食べたことある。代替えだとわからない。牛肉はえさもほとんど輸入。大豆も一部輸入であるが、健康にもいいし、皆さんも味わってほしい。

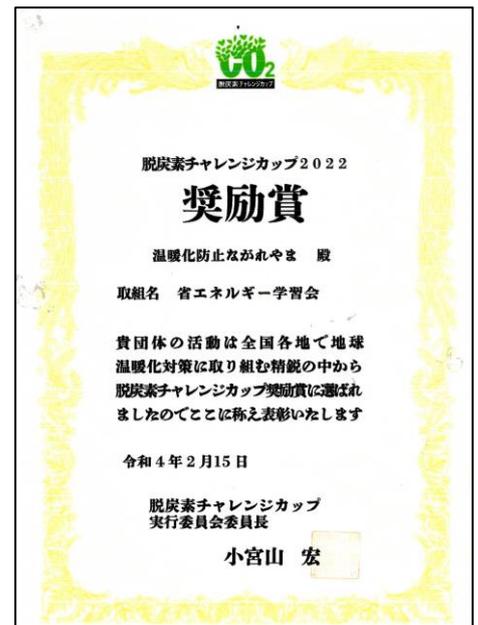
司会 温暖化の問題は人類存続の問題、地球規模の問題である。「脱温暖化」とは、CO2の排出をプラスマイナス、ゼロにするという事、社会の脱炭素化に向けて、エネルギー、交通、農業、都市と言った社会の仕組みから考えていかなければならない。

チャレンジカップ 2022

「奨励賞」を受賞

温暖化防止ながれやま（通称 OBN）は「脱炭素チャレンジカップ2022」において私たちの地球温暖化防止活動推進のための取り組みが認められ、「奨励賞」を受賞した。

「脱炭素チャレンジカップ」は、次世代に向けて低炭素な社会を構築するため、CO2削減の国民運動として学校、家庭、NPO、企業など、多様な主体が展開している地球温暖化に関する地域活動を報告し、連携の輪を広げる「場」を提供し、地球温暖化防止活動を推進する団体である。この授賞は、会員にとっての何よりの励みである。



第4回環境講座

らんま先生の

環境エコ パフォーマンスショー

～たのしく地球温暖化について考える～

2022年2月6日(日)、流山市文化会館において、第4回環境講座、らんま先生の「環境エコ パフォーマンスショー」が開催された。オミクロン蔓延の中、座席は1つおきにとってもらい、密を避けての開催で、66組206人の目が、らんま先生のパフォーマンスにくぎ付けとなった。

最初に井崎市長より「流山市は、温暖化防止ながらやまと一緒に年4回、環境に関するイベントを開催しています。今日はらんま先生の実験やマジックを通して、地球温暖化ややさしい生活について、勉強してほしいと思います」とあいさつを頂いた。



らんま先生、皿回しで入場。

傘の上で地球をまわしたり、地球の上に乗る、水の入った飛行機を振り回したりと楽しいパフォーマンスを次々と披露。

先生は25年前、インドネシアで木を植える運動に参加した。木を植えるとCO₂を吸収し酸素を出してくれる。2か月後、様子を見に行ったら、プラごみばかりのごみ捨て場に。日本に帰って環境にかかわりを持つことになった。



水の問題、汚れた水、ペットボトル1本をきれいにするには、ペットボトル200本の水が必要という。日本人は1人当たり、1日平均ペットボトル100本分の水を使っている。

水を大事にしたいなと先生。らんま家では、太陽光発電と蓄電器も取り付けました。ペットボトル500本分の雨水をためるやつを作って、トイレに使っている。

SDGsとは、誰一人取り残さない、持続可能な社会構築に向けての目標。貧しい、男女平等、自然を大切になど17の目標を掲げている。アフリカなど、気候変動で砂漠になり、漁師仕事がない、農家仕事ができない、子供たちは学校を休んで遠くの井戸汲みしごと。みんなもコロナの学校休みでどうだった？

エコなエネルギーの空気砲は、10年かけて全部手作り。世界のギネスで優勝した。この煙は水蒸気なので、心配ありません。小さい穴、三角の穴、大きい穴どのように飛ぶのでしょうか。大きい穴は広い会場の最後尾迄飛んで消えた。後ほど、今日参加の全員が体験することに。

みんなもごみを少なくしたり、水を大切にしたりと環境のためにできることを考えよう。また、来年も来ます。

第 175 回省エネ学習会

水の星・地球に住む私たち

石垣幸子 (OBN 会員)

第 175 回省エネ学習会は、2 月 5 日(金)に、生涯学習センターで開催され、「水の星・地球」についての講演が行われた。

太陽を取り巻く惑星のなかで水のある星は地球だけである。地球表面の 70%が海である。地球上の水のほとんどが海水であり、私たち生物に必要な水は淡水で、ほんのわずか3%弱である。

しかし、水は鉱物資源のように取り尽くしてしまうことはない。水は常に循環しているのである。

太陽エネルギーにより、海水などの水は蒸発して水蒸気となり、雲となる。やがて雨となって地上に降りてくる、地中にしみ込み地下水となり、また、川となって流れ下る。

日本はアジアモンスーンの東端にあり、降雨量は世界平均の 2 倍ある。温暖化による気候変動適応計画で、国土交通省はこれまでの治水を「流域治水」へ転換を打ち出した。

世界へ目を向けると、今、22億もの人が水不足に苦しんでいるという。日本は農畜産物の多くを輸入に頼っている。その生産に使う水も輸入していることで、世界の水資源とは切っても切れない。

地球温暖化による気候変動は、乾燥地帯の干ばつや熱波、そして豪雨による洪水など、生物にとって大切な水資源にも、重大な影響を及ぼしている。

このまま気温上昇が続けば、世界各地で、穀物が不作になる恐れがある。人の命に直結する食料や水の確保にも大きな影響が出ると予想される。

おおたかの森上下水道局・浄水場



流山市の水道水は、江戸川の河川水と市内の深井戸からくみ上げた水を 8 対 2 の割合でブレンドして供給している。

IPCC 報告

温暖化対応の限界警告

IPCC (国連の寄稿変動に関する政府間パネル)は 2 月28日、温暖化の影響や被害を軽くする「適応策」について最新の報告書を公表した。

人間の活動による温暖化の影響で、すでに、いろいろな被害が生じている。今すぐ対策をとればリスクを減らすことができるが、このままでは「適用の限界」を迎えると警告している。

第 176 回省エネ学習会

グリーンエネルギーについて

増永 弘 (OBN 会員)

3 月 4 日(金)、生涯学習センターにおいて、「グリーンエネルギーについて」の講演が行われた。

グリーン電力とは再生可能エネルギーで作った電気のこと。太陽光、風力、バイオマス、水力、地熱など、地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO₂)などのガスを排出せず、自然の力を利用して作る電気を言う。

2019 年の東京電力の電源構成は火力が 80%再生可能エネルギー6%、FIT 電気 6%である。火力発電の燃料は、天然ガス、石油、石炭と言った化石燃料である。化石燃料を燃焼させると多くの二酸化炭素(CO₂)を発生する。

太陽光発電は日によく当たる場所などの条件はあるが、グリーンで、枯渇することがない、メンテナンスが楽など、これからの脱炭素社会構築にとって、大切な電力である。

2016 年より、電力会社を自由選ぶことができるようになった。新電力会社として、「L000P でんき」「エルピオでんき」「みんなの電力」「ENEOS でんき」等が参入している。電力の原料を考えて選ぼう。

編集後記

私たちの食卓、ほとんどの食材が化石燃料に依存しています。食料を生産、運ぶ、消費するという「フードシステム」を考えていかなければならない

石垣幸子